



ら ぶ っ く  
**La・BOOK**

1月号

No.139



**新年あけましておめでとうございます**  
**本年もよろしくお祝い申し上げます**



**地域といっしょに** 三郷図書館

地域の人々が集まりやすい場所にある三郷図書館は、近年、周辺施設との連携に力を入れています。

今年度は、公民館講座の内容に合わせて、「三郷公民館講座連携展示」を行って、好評を得ています。

現在、図書館の入り口横には、公民館で保管されていた昭和22年、昭和58年、令和2年の航空写真3点を展示して、写真ごとに当時は何があったか、流行っていたかをまとめています。食い入るように見比べている人や、家族三世代で会話を楽しみながら見ている人もいます。

学校とも連携していて、昨年度は、中学校で行われたPOPコンテストの優秀作品を展示し、生徒たちの家

族だけでなく、地域の人々が興味深そうに見ていて関連本の貸出も多くありました。さらに、地域のこども園からも、お話し会に来館してくれています。

また、小中学生が図書館に来て、本を読んでいたりと、熱心に勉強していたりする姿を見ると、微笑ましくなります。

これからも地域の人たちにとって、身近で親しみやすい図書館を目指していきます。



☆おはなし会☆ 安曇野市図書館 2月のイベント予定

開催館	おはなし会名	開催日	催時間
中央図書館	おはなしのとびら	毎週水曜日 7、14、21、28日	10時30分から(乳幼児以上対象)
豊科図書館	ちいさいたんぼぼ	23日(金)	11時から(乳幼児以上対象)
	おはなしたんぼぼ	23日(金)	16時30分から(幼児以上対象)
三郷図書館	ポケットの会	10日(土)	10時30分から(乳幼児以上対象)
	おはなし会	22日(木)	11時から(乳幼児以上対象)
堀金図書館	おはなしのへや	20日(火)	10時30分から(乳幼児以上対象)
	おりがみのへや	28日(水)	16時30分から(幼児以上対象)
明科図書館	子どもと大人のおはなし会	24日(土)	11時から(乳幼児以上対象)

◆講座など◆

開催館	講座名	内容	開催日時	場所	申込等
中央図書館	映面上映会 「連続テレビ小説 おひさま総集編」第一章 約88分	図書館所蔵DVDを大画面で上映する毎月開催の上映会です。	2/9(金) 開場午後6時 開演午後6時30分	徳高交流学習センター	・対象：一般 ・費用：無料 ・定員：100人(当日先着順) ・申込：不要 ・問合せ先：中央図書館
	安曇野市出身の絵本作家「まるやまあやこ」さんと、わくわくおはなし会～おはなしとしょうかん特別版～	絵本の読み聞かせとワークショップを行う特別なおはなし会です。	2/3(土) 開始10:00～11:30	「みらい」多目的交流ホール	・対象：年長～小学校1、2年生親子 ・講師：まるやまあやこさん(絵本作家) ・費用：無料 ・定員：20組(申込先着順) ・申込：1/20(土)～窓口又は電話 ・問合せ先：中央図書館
	3市図書館連携展示「小説『安曇野』をとりまく人々」	安曇野市・塩尻市・松本市の図書館で連携し、郷土の著名人を題材にした展示を行います。記念カードの配布もあります。	1/27～3/28(安曇野市) ※2/6～2/25(松本市) ※2/1～2/25(塩尻市)	中央図書館内	・対象：一般 ・費用：無料 ・定員：なし ・申込：不要 ・問合せ先：中央図書館
堀金図書館	わくわく講座②「プレゼントBOXを作ろう！」	おはなしパレットさんと工作を楽しみます。	2/20(火) 午後4時30分～5時30分	堀金公民館スタジオ2	・対象：幼児～小学生 ・費用：無料 ・定員：8組(先着順) ・申込：必要 2/1(木)～窓口又は電話 ・問合せ先：堀金図書館

一般書 『桜大(おうた)の不思議の森』

香月日輪／著 徳間書店

表紙

13歳の桜大が生まれ育った自然豊かな黒沼村。その東にある黒沼の森はとて豊かな森ですが、その奥には「禁忌の場所」を抱えていました。かつて沼があったというその場所には、「森の神様がおわす」と信じられていました。この村は「不思議なもの」と人が共存する場所だったのです。昔はどこにでもあったであろう、少し「不思議」で大切ななにかを思い出させてくれるような、優しさあふれる毎日のお話です。『黒沼 香月日輪のこわい話』という本に載っている「黒沼」という短編では、6歳の桜大の不思議な体験が読めます。

児童書 『つくも神のゆゆばあ』

吉川知保/作 ハラカズヒロ/絵 くもん出版

表紙

生まれて100年たった道具が魂をもち、つくも神になるという…。冬休みパパと一緒にひいばあちゃんの家にやってきましたみずき。そこは不思議なことがおこる田舎の古い家だった。ひいばあちゃんによると、土蔵から歌声が響いてくるらしい。それを聞いた、みずきは怖がるどころか興味津々!! 掃除中だというのにぞうきんを放り投げ土蔵に向かった。みずきがそっと扉を開けるとそこに現れたのは身長50センチほどのおばあさん。ひいじいちゃんがむかし使っていた、ゆたんぼのつくも神「ゆゆばあ」だ! ゆゆばあを連れて自宅に戻ったみずきが出会うつくも神とは?

『樽木川と木流し（くれきがわときながし）』

樽木川は、松本市西部で奈良井川にほぼ直角に合流する。

現在も梓川本流路跡といわれるものが残っており、その一部は用水路として利用されている。「古梓川」とも呼ばれ、石川氏の松本築城の際に現河道につけ替えられたとの説がある。江戸時代、安曇村（入四か村、現・松本市安曇）の山林は松本藩の藩有林で、村人の多くは伐採事業に従事していた。主に薪と樽木（屋根板材）を、梓川流域の上高地が中心の山々から伐りだしていた。上高地は優れた美林地帯で松本藩の用木伐りだしの宝庫だった。伐りだした薪、樽木類は梓川を流して堀米（松本市島立）の土場（貯木場）で拾いあげて松本の城下へ運ばれた。材木の伐採は春、雪の上から始まり、秋の彼岸までに終わった。樽木・白木・薪などの材質によって分けけて、丸太のままでそれぞれに切って積んで干しておく。伐った材木の量は一年に上高地の奥や横尾谷や徳沢では薪9,000間（1間は高さ1.8尺、横1.8尺に積み上げたもの）、樽木20万金丁（20万本）がつくられた。山が紅葉し水量の落ち着く晩秋から春先にかけて、少しずつ流しはじめ、本流で勢ぞろいさせて激流をいっきに流すもので、実に豪快なものであったという。上高地から梓川を流して堀米渡場まで、数十万本にのぼる木を流すので、およそ45日かけて、梓川の流れを利用して木材を搬出する。梓川の木流しは、梓川渓谷の電源開発が進んだ大正10年ごろから、発電所やその堰堤が作られるようになり、川渡しも昭和8年（1933年）には上高地まで自動車道ができて、材木をトラックで運搬されるようになったことなどによって、だんだんと衰退していった。

<参考資料>

『南安曇郡誌 第2巻 下』 南安曇郡誌改訂編集会／編 1968年  
『安曇村誌 第2巻 歴史 上』 安曇村誌編集委員会／編集 1997年  
『安曇村誌 第4巻 民俗』 安曇村誌編集委員会／編集 1998年  
『信濃の青竜 犀川』 建設省北陸地方建設局千曲川工事事務所／編 1994年  
『土と水から歴史を探る』 小穴 喜一／著 1987年  
『松本藩』 田中 薫／著 2007年  
『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌 第二巻 歴史 下』 東筑摩郡松本市・塩尻市郷土資料編集会／編 1968年  
『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌 第三巻 現代 上』 東筑摩郡松本市・塩尻市郷土資料編集会／編 1962年

12月の貸出ランキング

一般書

- 1 素敵な日本人／東野圭吾
- 2 イラストでときめく片づけの魔法／近藤麻理恵
- 3 沈黙のパレード／東野圭吾
- 4 白鳥とコウモリ／東野圭吾
- 5 魔女と過ごした七日間／東野圭吾

AV資料

- 1 コクリコ坂から／宮崎吾朗
- 2 借りぐらしのアリエッティ／米林宏昌
- 3 すみっこぐらし とびだす絵本とひみつのコ 映画／まんきゅう

児童書

- 1 だるまさんが／かがくいひろし
- 2 バムとケロのさむいあさ／島田ゆか
- 3 びょういんのおばけずかん おばけきゆうきゆうしゃ／斉藤洋
- 4 びょういんのおばけずかん なんでもドクター／斉藤洋
- 5 つまんないつまんない MOEのえほん／ヨシタケシンスケ



編集・発行・お問い合わせ



中央図書館 ☎84-0111  
豊科図書館 ☎71-4022  
三郷図書館 ☎76-3078  
堀金図書館 ☎72-3601  
明科図書館 ☎62-1122

(図書館ホームページ(蔵書・資料の検索もできます)  
<http://www.city.azumino.nagano.jp/site/tosho>

よで館んでれゆ歴はにかさだ末名龍いや想は  
うみをであてく史、知。んと思の志士と龍のますに十二  
て利、れい、小司らそはんすの文すに支  
は用是ばまだ説馬ののい士とい字が、結  
は如し非辰すと、遠め龍何ま士坂本が、名  
何て読図、年、も、竜太た馬すが龍幕  
しん書因読わがの世皆馬幕有にて  
の辰

※編集後記※

★文字の読書が困難な方は、図書館へご相談ください★